

# 的外



みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒021-0853  
岩手県一関市字相去57番地5  
TEL : 0191-23-8960  
FAX : 0191-23-8950

みのる法律事務所便り  
第336号  
平成30年4月

みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> ✉ [minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)



## いなべん だべんく 田舎弁護士の駄弁句 ②1

「同級」と 妻に語って 怒られる  
何でも使って 楽しむのみぞ



H30. 4. 1

「日本人の老化のスピードは、50年前より10~15才遅くなっています。つまり、暦年齢に0.8掛けが実年齢と思えばいいのです」という高齢者病院のベテラン医師の話を目にしました。暦年齢75才の私は、0.8掛けすると60才です。妻は、暦年齢60才です。妻に、「お前と俺は同級生だ」と言いました。15才の年齢差がなくなったのです。

妻は、「どうして私の方は、0.8掛けしないの」と言い、「あなたはいつも自分に都合のいい話しかしない」と怒り出しました。そうなんです。私は、自分のことを中心にもの考える人間なのです。突き詰めて考えると、どうしても自分中心になってしまうのです。

彼女と旅行した彼が、うっかり切符を一枚だけ買ったそうです。「君のことはかり考えていて自分のことを忘れていた」と語ったそうです。うまいことを言いますね。私はそんな口が上手ではないのです。「俺は、不器用な男だ」と語ったところ、妻は呆れ返ったように、「あなたは都合が悪いと耳が遠くなったり、記憶力が悪くなったりと、要領が悪いわよ。不器用を装う男と言うべきよ」とやり返して来ました。互いに年を取りこんな会話を楽しんでいます。何でも使って、楽しんでいます。

誰に何と言われようと、0.8掛けすれば、私はまだ60才です。私は、0.8掛け説は正しいと信じています。信じる者は救われます。なんだか元気が出てきました。皆様も0.8掛けをやってみてください。若返った気になります。

いなべんだべんく  
田舎弁護士の駄弁句 ②

甲斐あるも

甲斐なき命と

思うのも

心一つぞ

みょうこうにん

妙好人



H30. 4. 7

「みょうこうにん妙好人」とは、「行状の立派なとくしん念佛者。特に浄土真宗で篤信の信者をいう」と広辞苑に書いています。篤信の信者ですから、信仰のあつい信者ということになります。

90 才になろうとする老高僧より、「先生は、妙好人だ。人生を楽しみ尽くそうとするその姿勢こそ、悟りに近い」とおた煽てられました。私は、そのようなたま玉ではないことは、私が一番よく知っています。人一倍臆病者で、ひどく小さなことでもびくびくするのです。

ですが、残す人生を生きている値打ちのない人生とするか、楽しい人生とするかは、自分の心一つにある、ということは、多くの病を得て、後期高齢者となった現在、心の底から分かるようになりました。妙好人などではありませんが、つまらないことは気にしないで、残された人生を周りの皆様とただひたすら楽しみ合いたいと思います。

この老高僧の言われる妙好人となるように生きてみたいと思います。金田だいてん諦典先生ありがとうございます。先生のいつまでも若々しい生き方にあこが憧れて  
います。

# 楽しく生きるためのネジを巻きましょう!!

## 一病気と生き方を語る集い



能の一つに「隅田川すみだがわ（墨田川）」という演目があるそうです。広辞苑は、「観世かんぜ元雅もとまさ作の狂女物語。人買いに誘拐ゆうかいされた愛児梅若丸を狂い尋ねて都から下った女が、隅田川でわが子の死を知りその後世を弔とむらい悲しむ」と解説しています。因みに、観世元雅は室町中期の能役者で、能作者だそうです。

喜多流謡曲教授金田諦典先生（元通大寺御住職）の教えによれば、その母は、子の死を知り、「かいなき命」つまり生きている値打ちのない命と世をはかな儚なんだそうです。それでも生きていけば、きれいな花に見惚れたり、春風に心地よさを感じたり、妙たえなる楽の調べに心を奪われたりすることがある、それだけで、生きている甲斐はある、という落ちのある物語だとのこと。人生は儚さ、辛さの中にも生きることの喜び、楽しさがあることを語っているということなのでしょか。

重い病気になったり、年老いてしまい、何事も思うようにいかなくなりますと、「かいなき命だ。生きている値打ちのない命だ」など思うことがあります。私も、60代には人工透析もし、10数回の手術を繰り返し、死を覚悟したこともありました。父母の享年を超え、後期高齢者となったいま、これ以上の長生きは、生きている値打ちのないかいなき命かもしれない、と思うこともなくはありません。

ですが、生きていけば、きれいなものには心が奪われます。美味しいものを食べれば満足します。孫は可愛くて仕方がありません。面白いことにはつい笑ってしまいます。二刀流の大谷選手のホームランや奪三振ショーには拍手をしてしまいます。そんな時には、生きていることは楽しいと思います。幸せです。

生まれて来てよかったと思います。



生まれたくてこの世に生まれたのではありません。年寄りになりたくて年寄りになったのではありません。病気になりたくて病人になったのではありません。みんな何かによって決められているのです。定めなのです。そういう縁なのです。受け容れなければならないのです。

生まれてこなければよかったと思ったこともあります。だからと言って早く死にたいとも思いません。死にたくなくなつて死ぬ時がくれば死ななければなりません。そう考えますと、誰の命も「かいなき命」ということになりそうです。人生そのものが生きている値打ちなどないほど、はかないもののようにも思えます。

ですが、生きていればこそきれいな女性や <sup>たくま</sup>遅い男性に魅せられ、ワクワクするのです。どうせこの世に生まされたというか、生まれたのです。「人生を楽しみ尽くしてやる」と居直るべきだと思ふようになりました。嫌なこと悲しいことは捨て、好きなこと、楽しいことだけを取ることにしました。物事は、<sup>しゅしゅ</sup>取捨選択のコツが肝要です。井上陽水は、『青空、ひとりきり』で、「楽しいことなら何でもやりたい 笑える場所なら何処へでもゆく 悲しい人とは会いたくもない 涙の言葉で濡れたくはない 青空、あの日の青空、ひとりきり ♪」と歌っていますが、そんな感じです。

大病になったり、高齢者となったりしながら、人生を楽しんでいる方が私の身の回りには大勢います。その方たちに接すると、こちらまで楽しくなります。心から尊敬してしまいます。その方たちの体験談と、生き方、心の持ち方を聴くことは、誰にとっても参考になる筈です。そんな思いで、拙著『あきらめなければならぬ あきらめてはならない—癌体験記出版記念講演会』と一緒に『病気と生き方を語る集い』<sup>つど</sup>を開催することになりました。『語る集い』は『聴



く集い』でもあるのです。一人でも多くの人に聴いてほしいのです。

すでに御案内の通り、平成30年5月12日(土)午前9時から午前12時までの予定で、一関文化センター中ホールで開催されます。是非ご来場ください。座席は、470名様となっています。一部は指定席となっていますが、その他は先着順となっています。入場料は無料です。4月20日現在、もう少し空席があります。仲間をお誘いの上、是非遊びに来てください。



こんな企画をしたのは、兄が、「でも、もう80だからな」とポツリと呟いた一言が耳に入ったからです。最近、少し大きな事業をしようとしていた兄が、生き生きと事業計画を我が家の台所でお茶を飲みながら話していましたが、突然、「でも、もう80だからな」と独り言のように言ったのです。その一言が頭から離れなくなりました。

「この兄でもそういう思いがあるのか」と、<sup>むしょう</sup>無性に寂しくなりました。子供の頃から、どんな苦境に立たされても、弱音を吐くことなどなかった兄でした。どんな人だって、大病したり、年老いてくれば、こういう弱気な一面が出てくるのは当然だ、それは仕方のないことだ、と思いましたが、他の人が言うなら聞き流しますが、強気一点張りで生きてきた兄が言ったのです。どんな人だって、そういう思いに至るものなのだと改めて知らされました。「誰もがそういう気持ちでいるのだ」「何とかしなければ」という思いが湧いてきたのです。「老いていく、病に悩まされる私達仲間を励まさなければならぬ、また、仲間から励ましてもらわなければならぬ」という思いに至りました。「この世に生きている者は、同病相憐れむでいかなければならぬ」と気付いたのです。その思いを行動に移すことにしました。そのための第一歩として『病気と生き方を語る集い』を企画したのです。

明日の命の保障がないのは、80だからではありません。昨日まで殺しても死



にそうのない若者だって、交通事故にして一瞬で死ぬことだってあることは、誰だって分かっています。私達は、生まれた瞬間から、あと、何日生きられるかは分からないのです。残す人生がどの位あるかわからないのです。いつまで生きられるか分からないのです。

そのような明日の保障さえない人生をどう生きるかが問題なのです。そのように考えてみますと、考えれば考えるほど生かされている間、その一瞬一瞬を、楽しみ尽くすことが大事だということに気がきます。一瞬一瞬、夢中になって、時間の経つのを忘れてしまうような生き方が、私の理想とする生き方です。過去も未来も今のためにあるのです。今の「一瞬一瞬を楽しむ」、それだけが人生なのだと思います。過去の楽しい思い出と、未来の楽しい夢とを心に持ちつつ、今を楽しむことこそ、人生を楽しむことになると確信しています。過去も未来も<sup>いま</sup>現在の中にあるのです。いまを楽しまなければならないのです。いまという一瞬を楽しみ合ひましょう。一瞬は永遠であり、永遠は一瞬なのです。現在という一瞬を楽しむ外に、何もないのです。過去も未来もないのです。

兄には、85才となろうと、90才になろうと、やりたい事業経営に夢中になってもらいたいです。重い病を抱えながら、高齢者となりながら、驚くほど世の為人の為に活動している人は、私の身の回りに大勢います。そういう方より、色々教えてもらいたいこと、聴きたいことがあります。生き方を語って戴きたいのです。兄に、「もう80才だから…」などと言ってほしくないのです。年など忘れ、生のある限り、やりたいことに夢中になって欲しいのです。

孔子は、2500年も昔に「楽しみて、老いを忘れる」と言ったそうです。現代の孔子とも思える方々に、楽しみて老いを忘れて夢中になっているお話を語って戴きます。それをお聴き戴き、「俺も、私も」と年を忘れ、病気を忘れ、残された人生の一瞬一瞬を楽しんでほしいのです。兄に、そういう気持ちになってほしいと思ったことが、兄に限らず、一人でも多くの人にそうなってほし



いという方向に思いが拡大し、『病気と生き方を語る集い』へと発展しました。

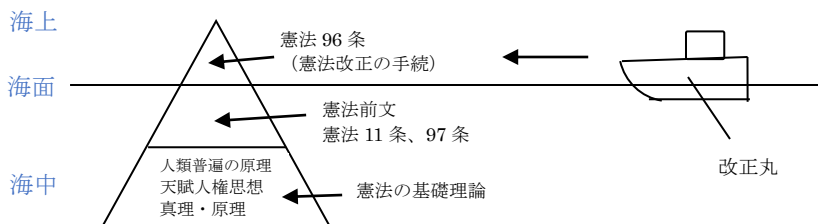
この事務所便りを差し上げています方は、私にとっては身内とも思える人です。兄とも思える人です。そのような皆様が、「もう 80 だから…」、「病気を持っているから…」というネガティブなお気持ちをお持ちなら、身内として、弟として放っておけません。何とかしたいのです。楽しく生きるためのネジを巻きたいのです。

そんな思いで、病気を克服したり、病気や高齢と仲良くしながら人生を楽しんでいる生き方の達人のお話を聴くことにしました。そのような目的で、『病気と生き方を語る集い』を開催するのです。この事務所便りをお読み戴いている方には、是非、現代の孔子とも思える先生方のお話を聴いてほしいのです。そんな思いが強いものですから、くどくなり申し訳ありませんが重ねて御案内する次第です。今のところ、もう少し空席があります。一人でも多くの身の回りの大切な方をお誘いの上、御出席下さい。お待ちしております。

## 新刊書発刊の御案内

### 1. 田舎弁護士の大衆法律学 新・憲法の心 (第25巻)

#### 国民の権利及び義務 (その2) 『隠れている部分を見る』



この絵は、憲法改正に関する絵です。海面より上に出て、誰の目にも見える

部分は憲法 96 条の憲法改正の手續の規定です。これには、「衆議院で 3 分の 2 以上、参議院で 3 分の 2 以上の賛成があり、国民投票で過半数の賛成があれば憲法は改正できる」とあります。この目に見えている部分だけを見て、この規定をクリアできれば憲法はどのようにでも変えられるでしょうか。

「そのような考え方を取ったら、タイタニック号が氷山に衝突し沈没したようになる、海中に隠れている部分を見なくてはならない」という『田舎弁護士の大衆法律学 新・憲法の心—第 25 卷 国民の権利及び義務 (その 2) 隠れている部分を見る』を平成 30 年 5 月に発刊します。憲法改正を考えるときは、憲法改正の手續を定めた憲法 96 条の規定だけではなく、まず、憲法の前文や他の条項を見なければならぬ、ということをお願いしたいのです。のみならず、憲法の基本原則である、①国民主権、②基本的人権の保障、③戦争の放棄が、なぜ定められたのか、という憲法基本理論まで掘り下げてみなければならぬ、ということを書きました。



## 2. 岩手県奥州市の 2 つの住民訴訟のその後

駐車場用地事件は、一審判決、二審判決が出され、平成 30 年 4 月現在最高裁判所で審理されています。中学校用地事件は、一審判決が出され、現在仙台高等裁判所第一民事部で審理中です。

駐車場事件の本は、平成 30 年 4 月ないし 5 月に発刊されます。中学校用地事件の本も、5 月ないし 6 月には発刊されると思います。奥州市民はもとより日本国民は、どなたでも日本国民であると同時に、どこかの県民であり、市町村民なのですから、地方自治に無関心ではいられない筈です。この本で、地方自治に関心を持つ切掛としていただくために、是非、お目を通してください。そのことが、国政を国民がコントロールするためにも、大事なことだと確信しています。賢い地方自治及び国政の主権者になりたいものです。